

## “シンドラーのリスト” (1993: スティーヴン・スピルバーグ)

第二次世界大戦時に親衛隊（ナチス）によるユダヤ人の組織的大量虐殺（ホロコースト）が東欧のドイツ占領地で行われる中、オskar・シンドラーがポーランド系ユダヤ人を自身が経営する軍需工場に必要な生産力だという名目でホロコースト送りを阻止し、その命を救った実話を描いた映画である。

ラストシーンでは、シンドラーによって救出されたユダヤ人たちが、シンドラーの墓に参列する場面が流れる。実際にシンドラーに救われて戦争を生き延びたユダヤ人たちである。ワカッ(長回し)

オskar・シンドラーは戦争を利用して金儲けする。ホロ容器工場（軍事工場）を開設。有能なユダヤ人会計士シュターツに工場の経営を任せる。ナチスの将校に取り入り、「安価な労働力」としてクラク・ゲット（※1）のユダヤ人を雇い入れ、自らの事業を拡大させる。

⇒ ”シンドラーのユダヤ人を安い労働力とみなす商売人根性”

(※1) 1939年9月、ポーランドの都市クラクはドイツ軍の占領下に置かれた。ナチス政権下のドイツ軍はクラク在住のユダヤ人をクラク・ゲットの中へ追放していた。

当時クラク・ゲットに居住を許されるのはユダヤ人労働者とその家族。

⇒ナチスによる虐殺から逃げられる。

敗戦ムードが色濃くなった1944年、ナチスによるユダヤ人の迫害は日ごとにエスカレートし、ついに虐殺が始まる。ゲットや収容所でユダヤ人を次々と虫けらのように虐殺するナチス。



「天国と地獄」 (1963 黒沢明)

### ・ 赤い服の女の子1

丘の上から見守るシンドラーは連行されるユダヤ人たちの中に“赤い服の少女”を発見。シンドラーの心の中で何かが動いた。

### ・ 「天国と地獄」

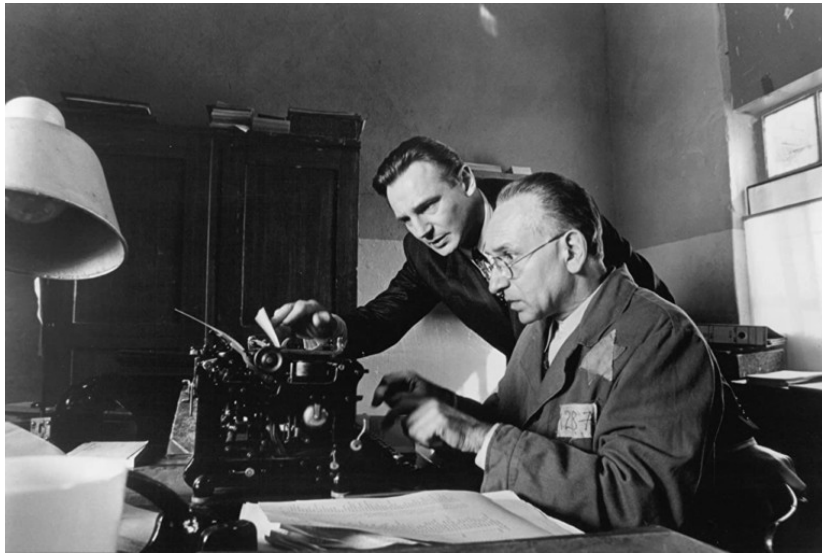
誘拐事件の犯人は貧しい環境に暮らすイタコ（山崎努）、自宅の窓から見える豪邸で裕福な暮らしをしている権藤に対し憎しみと怒りが犯行に至る。

・赤い服の女の子2

ナズは証拠隠滅を謀ろうと収容所を閉鎖。残ったユダヤ人をアウシュビッツに送り込み虐殺する。埋められていた死体も焼却処分のため掘り起こす。シンドラーは運ばれていく死体の中に“赤い服の少女”を見つける。

“シンドラーは罪もない人々が虫けらのように殺していくナズに怒り。”

- ⇒ 金儲けにしか関心がなかったシンドラーの心境に変化。
- ⇒ 金儲けを度外視した行動。
- ⇒ シンドラーはあるリストの作成を決意。



シンドラーとシュターン

シンドラーは故郷チェコのプリリツにユダヤ人を連れていくことを決意。収容所の所長ゲートに多額の金を握らせ労働力ともども工場の移転を承知させる。

リストアップできたユダヤ人の数は1200人。全財産を投げ打ち1200人ものユダヤ人の命を救った。

- ・シンドラーは救ったユダヤ人から感謝のしるしの指輪 ⇒ 「一人の人間を救う者は世界を救う」  
(金歯から指輪を作る)
- ・シンドラーに救われたユダヤ人の子孫は6千人以上。
- ・スティーブン・スピルバーグ監督は、黒澤明監督を強くリスペクトしているというのは有名な話

「スター・ウォーズ」のジョージ・ルーカス  
「地獄の黙示録」のフランシス・フォード・コッポラ  
「バック・トゥ・ザ・フューチャー」のスティーブン・スピルバーグ

□映画【ブラックブック】 (GYAO!)

1944年、第二次世界大戦時ナズ・ドイツ占領下のオランダ。若く美しいユダヤ人歌手ヘルは、ドイツ軍から解放されたオランダ南部へ家族とともに逃げようとするが、何者かの裏切りによって家族をナズに殺されてしまう。

